

我われの世界を変革する

織田 由紀子

「我われの世界を変革する」は、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs) を含む「2030アジェンダ」のタイトルである。SDGsは“誰一人取り残さない”をモットーに、包摂的で持続可能な環境・経済・社会を達成するための行程表で、日本でも昨年12月に実施指針が策定され、いよいよ実施段階に入った。全部で17の目標があり、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントはその1つで、SDGsの達成に欠かせないと位置づけられている。

2016年に発効した気候変動に関するパリ協定は、地球の気温上昇を抑えるために炭素排出量ゼロ社会をめざす新たな国際的約束である。この達成のためには現在の経済・社会の仕組みを根本的に変換する必要がある。すでにいくつかの企業は再生可能エネルギーを100%にすることを約束しており、変革の動きは始まっている。

地球温暖化などの環境悪化や災害の影響は、誰に対しても一律に現れるわけではない。貧富の格差やジェンダーの違いにより、その影響は異なった形をとる。しかし発言力、経済力、意思決定への参加における不平等のため、女性など声の小さい人の課題は認識されにくく、取り残されることが多い。災害や環境悪化が格差拡大の引き金になることさえある。

このような不公正や格差是正のためには、ジェンダー平等や女性のエンパワーメントが必要となる。しかしその重要性にもかかわらず、地球温暖化への取り組みにおいて、再生可能エネルギーとジェンダー平等が同じレベルで語られることはない。根本的な世界の変革をめざしながらも、「ジェンダーは別の枠組みで」となることが多い。SDGsの実施はこのような状況を変えるチャンスといえる。SDGsを通じて、ジェンダー平等の実現こそが、世界を根本的に変えることなのだとは広く認識されるようにしたいものである。



PROFILE

おだゆきこ：JAWW(日本女性監視機構)代表、SDGs市民社会ネットワーク ジェンダー分野共同世話人、NPO 法人北九州サステナビリティ研究所 研究員。専門分野は、開発・環境・ジェンダー。近著：「リオ+20への女性グループからのインプット」『季刊 環境研究』(第166号、2012年5月号、82-90頁)。